

大きなイベントはこうやろう

皆さん、イベントを依頼されて困ったことはありませんか。

今回は、失敗談も含めいろいろな体験を出し合い、教訓や参考にしたいと考えています。情報をください。条件はいろいろあるかもしれませんが以下のように記入してください。基本は、当日、100人以上会場に参加者が来て、ネイチャーゲーム以外にテントがあり、その一つにネイチャーゲームの割り当てがある程度です。ネイチャーゲーム以外のクラフト、ネイチャーゲームとクラフト、展示などの組み合わせでもかまいません。

- 広い芝生の真中でテントをひとついただきました。カモフラージュをしました。通りがかりの人にすぐに体験できるように10mのロープを1本結び、輪にしてその中に爪楊枝を隠しました。爪楊枝は、マジックでいろいろな色をぬりました。あらかじめ10本あると伝え、見つけていただきました。なかなか難しかったですが中には興味を持ってみてくださった方がいました。参加者 50人くらいかな。
- 2年前の全国一斉大会でのことです。(1) 初めて取り仕切る全国一斉だったので、精一杯集めようと「ハガキ受付」と新聞に告知したら90人以上集まってしまいました(募集は70名)。当然予定した10名では指導員が足りず、毎日県内リーダーに電話して、14人ほど来てもらいました。参加者の数が募集を超えた場合、どうしていますか? 嬉しい悩みですが。(2) さらに困ったのは当日きてくれる割合がわからなかったこと。全員きた上に「当日参加申し出組」があれば許容オーバーになったと思います。結果は、2割程度欠席されたのですが当日の申し出が同数で、94名でした。(3) 会場の県立神山森林公園では当日「徳島県育樹祭」イベントがあり、与えられた場所では提灯や放送がありとても雰囲気ではなかったので、当日下見段階で場所を移動しました。県のイベントでは結構場所を占有されることがあるので、担当者との綿密な打ち合わせが必要だと痛感しました。(4) 参加者が我が子の写真を撮り出して、止めようがなくなりました。それまで少人数では対応できていたので、「節度を持って」と最初にいえばよかったと思います。以後、そういうことはないのですが、集団心理ですね。
- やはりカモフラージュで、ネイチャーゲームの受付の近くにあった1本の木をロープで囲みました。その中に、通常のカモフラージュと同じように人工物をセットしました。1周していくつあったか聞く形で実施。芝生に差してあった鉛筆や人工の草の差してあったものが見つかりにくかったようです。もちろん、木の幹や枝にも人工物をおきました。1周だけなので、関わる指導員も2名ほどで実施できました。参加者は、100人以上だったのでしょうか。もう一つは、フィールドビンゴ。受付からスタートして、公園内を自由に探してきてもらいました。(このイベントでは、スタンプラリーがあり、ネイチャーゲームも体験すると一つスタンプがもらえるという形だったので、結構来場者がありました)
- 100人以上の来場のある昼間一日のイベントです。他の団体の出し物のあり、各団体の場所をまわって体験するスタンプラリー形式のイベントでした。提供したものは、プランターや、植木を置き、そこで、「ミニカモフラージュ」。そして、会場に合わせて作ったオリジナルビンゴカードとえんぴつを用意しておき「フィールドビンゴ」、グループ・親子で自由にまわってくる。帰ってきたらわかちあいまとめ。テーブルでは「自然物でクラフト」。自由に参加できるイベントのため、参加者数は、100人以上、入れ替わりで、やってくる。リーダーの配置は、カモに1名、ビンゴの導入説明に1名、わかちあい・まとめに1~2名、クラフトに1~2名として随時ローテーション。リーダーは、急がせない、待たせない、ように配慮しながら交代で休憩をとった。イベント型の体験では、じっくりとわかちあいがしにくいのが、1つ、2つでも気づきをわかちあえればOKだというスタンスで、次から次へとやってくる参加者に対応していった。クラフトは、どんぐりなどの木の実を木の輪切りにグルーガンで着けてろうそく立て、メモホルダー、など作製、木の輪切りで名札作り、木の実のアクセサリー作り、など、毎年クラフトは少しずつ内容を変えている。オリジナルのビンゴカードを足りなくならないように多く作成しておく。パソコンとプリンター(インクジェット)で作製するため、水に濡れると絵や文字がにじんでしまうため、雨など

水濡れ防止のため、ビニール袋も用意した。

- 公園でのイベントに参加、公園のイベントに来ている親子や子どものグループなどにネイチャーゲームしますよ!と、のぼりを持って宣伝して、さそった。10人くらい集まったらそのリーダー中心にネイチャーゲーム体験スタート。リーダー2人くらいで1グループ受け持つ。「私は誰でしょう」又は「ノーズ」、「コウモリとガ」、「目かくしいもむし」、「目かくしトレイル」という流れで、参加者を集めたグループから順次始める。トレイルは他のグループと重ならないように、時間をずらすように配慮した。私のグループでは、午前・午後と、各1グループ担当した。公園のイベント参加者は100名以上いた中で人が多くない公園の場所を選べたことと全員参加でなかったため、ゆったりとネイチャーゲーム体験を提供できたよかった。
- 今回の課題の条件に合うか?と思いましたが、こんなこともありました。小学校1年生全部対象にしたPTA行事で、一度にネイチャーゲーム体験させるということになりました。児童が全員で150名くらい、5クラスありました。プログラムは、「ノーズ」を全員で、クラスごとに「コウモリとガ」、まとめて飛ばす種の模型(折り紙で作ったもの)をおみやげにお持ち帰りにしました。1クラス約30名の児童と担任、副担任、学習支援ボランティアの父兄、という参加者でした。事前に担任、副担任、学習支援ボランティアの父兄には、プログラムについて説明し、特に「コウモリとガ」は指導できるくらいに注意点を含めて指導しておきました。「コウモリとガ」では、1クラスごとに二重円で、実施。会場の真ん中のクラスでデモをしてみせました。そして、コウモリ役とガ役の選択は子どもたちの顔がわかる担任・副担任の先生にしてもらいました。そうすることで、多くの子どもたちにコウモリ・ガのどちらかを最低1回はできるように配慮しました。場所は学校の体育館で音をききわけるのが難しいかと思いましたが、上手に聞き分けていたようです。デモをした後は、クラスごとに、先生中心に「コウモリとガ」をもらい、その各クラスを回ってアドバイスしてまわりました。飛ばす種の模型は、一度に天井に向けて投げると回りながら落ちてくる(飛んでいる)のを見せてから、お話をしてお土産は先生から後でもらってね!ということで、終わりました。(最後の時間がなかったので、直接手渡しはできずでした)指導員は2人で、先生・父兄に手伝って頂いた例です。
- 依頼されたときは、学童保育の活動で、会員は50名程度いますが行事の参加するのはいつも30名程度です。保護者を含めても40人程度との内容でした。ところが当日現地に行くとなると保護者含めて85名もいるのです。さあ〜、一人でどうしよう。予定していたものを変更し、ノーズ・フィールドビンゴ・目かくし歩き(親子で)何とかこなしましたが、反省として主催者とはしつこいくらいの確認が必要です。勉強になった行事でした。

○大きな公園でのイベントにて、ネイチャーゲーム体験をすることになりました。

まず、展示ブースで、開催時間を11時と決めて予約受付をしました。

とはいえ、なかなか来ないので、ちらしを持って会場内の親子連れに配りつつ

「11時からやります」とアピール。

さらに、11時前から旗をもって、ダックコールを吹いて注意をひきつつ「ネイチャーゲームやるよ!」と呼び込みをしました。

結果、15名程度集まってくれたので、会場前の緑地へ移動。

リーダーは、3名です。

まず、「ノーズ」、つづいて「動物交差点」「フィールドビンゴ」と進みました。

その後は、松ぼっくりのクラフトをやりました。

イベントの場合は、とにかく楽しくやるをメインにしていますが、少しでも興味

を持ってもらえたらと地元の生き物を取り上げました。フィールドビンゴでは、よく来る公園なのに実は見過ごしていたというようなことに焦点を当てるような振り返りにしてみました。

イベントでは、参加者の年齢層がバラバラになることが多く、幼稚園から小学校の高学年までと幅広いことが多いです。小さい子には、前でやっているリーダー

以外のリーダーがフォローに回って貰っています。また、特定の前に出るタイプの子ばかりにならないように、まんべんなく声をかけるようにしたのがよかったなと思いました。

○雨の日のイベント会場にて

公園でのイベントでしたが、午後から雨になりました。

午前中は、「ノーズ」と「フィールドビンゴ」最初は10人くらいでスタートしましたが、さみだれ式に人が増えてきたこともあり、グループではなく一人ずつでやってもらうことにしました。小さい子や親子は、親子連れでやってもらいました。「何かやっている？」と興味をもってブースにきた人には、留守番のリーダーがカードを渡し、説明して、途中から参加して貰いました。探す時間を長めに取っていたので、途中参加でも何とかなっていました。

午後からは、雨がかなり振ってきました。野外のイベントなので、みんなテントや傘のしたで雨まち状態です。

私たちも、傘とテーブルセットのところで様子見でした。

時折、ブースを訪れる人達がいまいたので、テーブルセットで松ぼっくりクラフトをやりました。何故か、一組おわるとまた一組とあまりとぎれることなく人がきました。まつぼっくりクラフトをして、チラシを配布して、地域の会の宣伝をしました。自分のクラフトが終わって、友人、兄弟待ちの子には、ノーズをやりました。

雨なりに、楽しんでもらえたようです。

○配布したチラシ

チラシは、裏(表?)がカラーの日本協会の支援チラシを使いました。

片面に、地域の会のイベントお知らせを入れました。

両方の会場ともに、イベントを目的にしてこられていて、ネイチャーゲームを全く聞いたことの無い人が多いと思われる会場でした。実際に渡してみても、「ネイチャーゲーム?それ何?」という反応が多かったです。

片面写真付きカラーのせいか、「何か良いもの?」のような感じで受け取って貰いやすかったような気がします。また、写真付きなのでネイチャーゲームの説明がしやすかったように思います。

意外とつかえると思いました。

失敗談です。

3年前の話ですが、三重県鈴鹿市の箕田小学校から依頼された学校行事です。スタッフが揃わなかったので小学5、6年生の4クラスを1人で実施しました。人数は150人弱でした。

依頼は体育館でできるネイチャーゲーム

そこで限られた時間で“動物のことを知ろう”と言うテーマで「ノーズ」と

「動物交差点」を実施しました。

ノーズは問題なく終了し、私は誰でしょうを行い、参加者全員で動物交差点を実施

先生をスタッフとしお願いして動物カードを付け所までは順調、開始と同時に一斉に動き始め活動的に始まったが答えられる子どもが少なく時間が過ぎるだけ、1人でヒントを与えていったが当てられた人が1/3程度で一

且終了して背中カードを取り自分が連想してきた動物と合っていたか否かの感想を聞く程度の活動で消化不良でした。

やはりスタッフの確保と準備が必要と再認識しました。